

平成 28 年度県外学校訪問報告書

- 【訪問高校】神奈川県立藤沢清流高等学校
(浅野英治 校長)
〒251-0002 藤沢市大鋸 1450 番地
TEL 0466-82-8112 FAX 0466-83-3536
- 【訪問期日】平成 29 年 1 月 26 日 (木)
- 【訪問者】玉利 博文, 森村 靖彦, 伊東 和輝
- 【対応者】内田 淳巳 副校長
森井教諭 西川教諭



<学校の沿革>

大清水高校と藤沢高校が再編統合し、平成 22 年に単位制による全日制普通科の高等学校として開校（県立の単位制高校としては 8 校目）した。

<学校の特徴>

「まじめがかっこいい」「二兎を追う」が開校当初からのキャッチフレーズで文武両道を目指してのことではなく、まじめとは本気、二兎を追うとは挑戦する心を持つことを示している。男女共学の 1 学年 8 学級の計 751 名が在籍している。1 クラス 30 人編成（平成 28 年度入学生は 35 名）で、きめ細やかな HR 指導を行う。8:40 分から朝読書・SHR があり、9:00 から 1 校時が開始し、90 分授業が 4 校時まであり 16:15 に終了する。神奈川県授業力向上推進重点校に指定され、アクティブラーニング（以下 AL）型授業の実践による生徒の学力向上を推進している。

<アクティブ・ラーニング（以下 AL）の取組>

- ① AL 型授業においては、講義（説明）を極力減らし、生徒が学びあう時間を確保することが大事にしている。ただし、講義を全面的に否定しているわけではなく、必要な知識・情報を講義によって教えることが AL をやる上での大前提である。AL=グループワークではない。
- ② AL を推進するワークグループ（委員会）は、キャリア教育や研究推進係を中心に構成し、広報担当も兼ねている。
- ③ 全授業に AL を実践しているわけではなく、単元の始まりやまとめの授業で主に活用している。
- ④ AL においては、自由に意見を言える雰囲気作り（発問式の授業）が重要となってくる。1 年次の 4~6 月で、わからないこと、間違ふことは悪いことではなく、わからないから学校に来て学んでいるという意識を持たせる。教員としてもわからないことや前回やったのに覚えていないことに注意することはしない。失敗を否定せず、マイナスなイメージを植え付けない。椅子に座らず、歩き回り、教え合ってもよい。90 分授業の前半 30 分は復習+予習に時間に充てることもある。ただ、課題などをやってこないことへの注意や聞くべき時は聞くなどメリハリをつけることは大事である。とにかく、ダメというレッテルを貼らない。
- ⑤ ジグソー法などのグループ学習にとらわれず、各教員・各教科の特徴に応じて実施する。
- ⑥ 校舎の各階に AL で必要なホワイトボードやペンを配備し、授業で使えるようにしてある。
- ⑦ 数学では実際に校舎外に出て、建物の高さを測量してきて、教室に戻って三角比と自身が測量した建造物を利用して校舎の高さを割り出す授業などを実践した。
- ⑧ 違う学年の生徒やグループ学習が苦手な生徒もいるが、半ば強制的にグループに入れてしまう。グループの中に気にかけてくれる生徒はいる。
- ⑨ AL に関する職員研修は、年 7 回程度。新任者には最初の職員研修で AL について確認する。12 月の研修はタブレットやプロジェクタの使い方など ICT に関する内容であった。

<授業参観（AL 型世界史 B）>

- ① 帝国主義政策についての特徴を班ごとに一か国を指定してホワイトボードにまとめさせる。すでに生徒は一通り学習しており、単元のまとめに活用。まとめの時間を 40 分に制限する。（写真①②）

- ② 教えられた知識をまとめて発表するという形でアウトプットをし知識を確実に定着させかつ、得た知識を活用し課題解決を図る。また、班でまとめるためコミュニケーション力を身に着けさせる。
- ③ 黒板に貼られた地図上にも各国の政策を表現させ、視覚的に国同士の横の繋がりを意識させる。(写真③)
- ④ 班に分かれての活動であるが、話し合っけてまとめている班もあれば、分担をしてそれぞれ自分の担当部分をまとめている班もあった。教員は直接的な解答はせず、ファシリテーターに徹する。
- ⑤ まとめたものから最後に確認テストを行う。
- ⑥ 授業でまとめたホワイトボードは個人的に必要であればスマホで撮影することを許可する。

<学習>

- ・ 90分の使い方を全教員で考えようと、365日相互の授業参観が可能である。自身の授業の臨み方とは違う生徒を発見したり、他教員の良い部分を吸収したり、相互に意見を交わしあったりすることで授業力の向上に努める。
- ・ 朝読書(毎日10分)も総合的な学習の時間の単位として認める。週5日で50分換算。
- ・ 一年次は基本固定時間割。2年次からは選択が多くあり、生徒の取りたい授業の希望を出させて、それを受けて時間割マスターを作成する。
- ・ 単位数に限らず、残留はなく全員3年生までは進級できる。卒業の単位数が足りない場合は3年生で残留する。本人が希望すれば2年生に残留することも可能だが、ほとんどいない。
- ・ 木曜日の4校時はLHRが45分+総合的な学習の時間が45分で設定してある。総学は年間通して実施し、朝読書と合わせて2単位となる。ただし、3年次は選択教科が多く、朝授業がなく、登校しない場合もあるため朝読書はなく、総合的な学習の時間は1単位で設定している。3年の総合ゼミⅢは小論文を書かせる内容で90分前期で終了、後期は質問タイムに充てる。
- ・ セルフプレゼンテーションという科目があり、入社試験で行われるようなグループ活動に取り組み、コミュニケーション能力の育成(ディベートもあり)を図っている。
- ・ 火曜日・木曜日の放課後は清流タイムとして生徒が自由に先生方に質問ができる時間に設定してある。そのためこの曜日はなるべく放課後に会議を入れないようにするが、最初の30分は職員室に必ずいるようにするなどしている。また職員室前に学習ホール(机、椅子、ホワイトボード、仕切り)を設置し個別指導に当たれるようにしている。(写真④)
- ・ 時間割上空き時間が出る生徒もいるが、校外に出る生徒はほとんどいない。学校周辺に何もなし、空き時間はどこにいるのかということ必ず担任に報告することになっている。一教室が自習室として開放。自習室は常に自習室として設置してあり、一人ひとりの机が仕切られている。飲食禁止で学習する生徒のみ使用できる。他にもラウンジがあり、グループで話し合ったり、飲食しながらしたい生徒はラウンジで学習する。(写真⑤⑥)
- ・ 夏季補習も実施しているが、希望制。
- ・ 教員はジャストタイムを心掛け、チャイムと同時に授業を開始する。

<生活・その他>

- ・ 4月に1年生対象にフレッシュャーズキャンプを実施し、学校生活の決まり・ルールを徹底的に叩き込む。生活面においては厳しさをもって対応(1年4月~5月は敢えて失敗させて、ダメなものはダメと徹底して指導)する。頭髪などの服装容儀に加え、授業の重要性を教えこむ(例えばあなたたちから〇〇を変えようと呼びかける、チャレンジする、二兎を追う)ことで、授業を抜け出す生徒はほとんどなく、さぼる生徒もおらず、生徒同士で注意し合う雰囲気になる。掲示板も自分で見るようになる。
- ・ 修学旅行は実施せず、研修旅行を行う。3泊4日のうち2泊は民泊を行い、農作業や漁業などの体験を行う。総合的な学習の時間では、この民泊に向けての事前学習や依頼文の書き方、体験したことをレポートでまとめるなどの活動を行う。また文化祭でも民泊させていただいた家庭の生産品などを販売するなどの交流を図っている。
- ・ 小学校、中学校が隣接されており、かるた大会やドッジボール大会、書初め教室や朝のハイタッチ運動などの交流がある。

- ・ 部活動加入率は87%で、未加入者や退部者に向けて年3回声掛けを行うようにしている。特にサッカー部は部員数が多く、男子は128名の部員を抱えている。
- ・ 神奈川県で転編入をする際は県が運営する転編入センターに連絡が行き、それから各学校に連絡がくる仕組みになっている。転編入は年に一人いるかいらないか。

<進路 (H27年度)>

- ・ 進学 大学：132名 (55.9%)，短大：17名 (7.2%)，専門学校：55人 (23.3%)
 ※ 大学進学のは多くは推薦受験による。
- ・ 就職：3名 (1.3%) ・ 進学準備等：29人 (12.3%)

<写真①>



<写真②>



<写真③>



<写真④>



<写真⑤>



<写真⑥>

